

様式 2

令和 5 年度 墨田区立第三吾孺小学校 経営計画書

校長名 川中子 登志雄

学校目標	「自立」 自ら学び、考え、行動する人 「共生」 思いやりをもち、共に生きる人 「健康」 しなやかで丈夫なところとからだをもつ人
目指す学校像	「すべてはみんなの笑顔のために」 三吾小に集う子供、保護者・地域、そして教職員 すべて の人の笑顔あふれる学校
目指す子供像	「学ぶ」ということを通して、「思いやり」の上に立つ真の教養と品格とを身に付けようとする 子供。そのために、主体的(proactive)に生きる子供。
目指す教師像	①教育への情熱と使命感にあふれた教師 ②自らも学び、子供とともに感動することのできる 教師 ③社会人としての教養と品格のある教師

項目	取組目標	具体的方策	取組指標	成果指標
教科指導等 【学力の向上】	児童を学習の主体にさせる授業改善を図り、シンキング・サイクルを活用した主体的・対話的な学びを進めることができるようにさせる。	複線型学習、自由進度学習等の研究を行い、教師主導の授業スタイルからの脱却を図る。	4 教アで 90%以上が主体性の育成を意識した授業改善に取り組んだと回答 3 同 80%以上 2 同 70%以上 1 同 70%未満	4 算数実力テスト(1月末学校独自)標準偏差値が昨年度1月末実施と比較し+2ポイント 3 同+1ポイント 2 同+0ポイント 1 同マイナス
	主体的な家庭学習習慣の定着を図る。	研推・学力向上部を中心に、従来の宿題を撤廃し、家庭学習の方法の改善を図る。前期までに、「新・家庭学習の手引き」を作成し、後期はじめに全家庭に配付する。	4 保アで 85%以上が学校は家庭学習を推進する手立てを適切に実施していると回答 3 同 80%以上 2 同 70%以上 1 同 70%未満	4 児童アで「自分で考えて家庭学習できた」に 70%以上が肯定的回答 3 同 60%以上 2 同 50%以上 1 同 50%未満
	児童の自己肯定感を高める評価方法について研究を深める。	評価検討プロジェクトチームを発足し、1年間をかけて通知表に代わる効果的な評価方法について研究・検証を行う。	4 教アで 80%以上の教員が来年度の評価方法について理解することができた と回答 3 同 70%以上 2 同 60%以上 1 同 60%未満	4 学力向上プロジェクトチームが12月までに効果的な評価方法を提案できた。 3 同1月までに 2 同2月までに 1 同年度末までに提案できなかった。
生活指導等	【人権の尊重】 児童の主体性を育み、協働し、いじめが起こりにくい集団づくりを行う。	基本的な人権を侵害する言動を「見逃さない、許さない」指導を徹底し、組織的に差別やいじめの防止に取り組む。	4 教アで 95%以上の教職員が組織的に対応したと回答 3 同 90%以上 2 同 80%以上 1 同 80%未満	4 認知したいじめ問題に 100%対応、95%以上改善・停止 3 同 100%対応、90%以上改善・停止 2 同 100%対応、80%以上改善・停止 1 改善・停止 80%未満、または対応できないケースがあった
	【特別支援・インクルーシブ教育】 組織的な対応で、不登校問題を含む特別支援の課題解決を図り、個々の児童の特性に合わせた支援を行う。	特別支援部を中心に、全教職員で特別な配慮を要する児童や不登校傾向のある児童の支援にあたる。まなびの教室との連携、学習室「みどり」の活用を推進する。	4 教アで 95%以上の教職員が組織的に対応したと回答 3 同 90%以上 2 同 80%以上 1 同 80%未満	4 不登校出現率 7%以内かつ学校との接点維持 98%以上 3 不登校出現率 8%以内かつ学校との接点維持 98%以上 2 不登校出現率 9%以内かつ学校との接

様式 2

				点維持 98%以上 1 不登校出現率 10% 以上かつ学校との接 点維持 98%未満
	【主体性の育成】 学びや生活の意志決定を児童 に委ね、その決定に責任をも つ態度を育成する。	全校体制で「児童の主体性 の育成」をテーマに研究を 行い、学力向上・特別活動・ Leader in Me のそれぞれの 角度から主体性の育成方法 を確立する。	4 教アで 90%以上が積極 的に研究に参加できたと 回答 3 同 80%以上 2 同 70%以上 1 同 70%未満	4 児童アで「学校教育 目標「自立」を意識し て生活することがで きた」に 90%以上が 肯定的回答 3 同 85%以上 2 同 80%以上 1 同 80%未満
	【健康、安全教育】 感染症予防の正しい知識に 基づき、健康維持のために主 体的に適切な行動が取れる ようにさせる。	手洗い、咳エチケットなど の衛生習慣を定着させ、い たずらに恐れることなく、 適切なマスクの使い方を主 体的に選択できるようにさ せる。	4 90%の学級で、適切な 教材を使用して保健指導 を実施 3 同 80% 2 同 70% 1 同 70%未満	4 平時にマスクを着 けている児童の割合 が 20%以下 3 同 40%以下 2 同 60%以下 1 同 60%以上
学校の 管理運営 【教職員】	全校体制で校内研究を進め、 あらゆる角度から「児童の主 体性の育成」を図る。	研究推進委員長と 3 部長を 中心に、全ての教育活動を 研究と結びつけ、組織的に 改革を遂行する。	4 教アで 100%が「当事者 意識をもって研究に取り 組んだ」と回答 3 同 95% 2 同 90% 1 同 90%未満	4 「学校教育目標「自 立」ができている」5 月にとった児童アと 1月にとった児童ア の伸び率が 10%以上 3 同 5%以上 2 同 3%以上 1 同伸びていない
	教員としての使命を自覚し、 服務規定を遵守するととも に、組織的に研修を推進し、 教員の資質・能力の向上を図 る。	・ 服務事故防止研修会を毎 月実施し、組織的に事故を 起こさない・起こさせない 教員集団の育成を図る。 ・ 朝礼講話、INAHO による 資質向上研修を実施する。	4 教アで 90%が「当事者 意識をもって服務研修に 参加」と回答 3 同 85% 2 同 80% 1 同 80%未満	4 事故件数 0、保アで 教職員の信頼度 90% 以上 3 事故件数 0、同 85% 以上 2 事故件数 0、同 80% 以上 1 事故発生、または保 アの信頼度 80%未満
	「児童の主体性の育成」研究 と一体的に、教職員の働き方 改革を推進し、教職員の身体 的・精神的な健康を守る。	プロジェクト・チームを立 ち上げ、校務を整理し、職 員の平均時間外勤務月 45 時間以内を達成する。	4 教アで 90%以上が「平 均時間外勤務月 45 時間 以 内を意識して働くこ とができた」と回答 3 同 80%以上 2 同 70%以上 1 同 70%未満	4 80%以上の教員が 平均時間外勤務月 45 時間以内を達成 3 同 70%以上 2 同 60%以上 1 同 40%以上
家庭・ 地域連携	地域の教育財産を生かし、地 域を知り、地域を愛し、誇り に思う児童を育成する。	キャリア教育特別授業をは じめ、ゲストティーチャー による体験的な学習の充実 を図る。各学年 3 回以上の 実施を目指す。	4 ゲストティーチャーを 活用した授業を学年で年 間 3 回以上実施、全体で 20 回以上実施 3 同 3 回実施、全体で 18 回以上実施 2 同 2 回実施、全体で 15 回以上実施 1 同 2 回未満、全体で 12 回以下	4 児童アで 90%以上 が「ゲストティーチャ ーと楽しく学習がで きた」と回答 3 同 80%以上 2 同 70%以上 1 同 70%未満
	積極的に教育活動の情報発信 を行い、保護者・地域の学校 教育への理解を深め、教育活 動への参画を促す。	HP、学校だより、学校公開、 動画通信、校長「語らいサ ロン」、各種アンケート等 を通して、情報発信・情報収 集を行う。	4 保アで「学校は積極 的に情報発信している」に 肯定的回答 90%以上 3 同 85%以上 2 同 80%以上 1 同 80%未満	4 保アで「学校の教育 活動がよく分かる」に 肯定的回答 85%以上 3 同 80%以上 2 同 70%以上 1 同 70%未満

※ 表については、必要に応じて 2 ページ以上にわたるように加工する。